

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2012. 5.21

No.2037
No.37



出席率	会員46名中32名
先々週の出席率	93.33%
ゲスト	人権擁護委員協議会 会長 廣川邦夫様
ヴィジター	三条RCより 五十嵐晋三君
先週の メイクアップ	5/15 三条北RCへ 馬場眞樹君 星野健司君 飯山勝義君 野島廣一郎君 佐々木常行君 5/18 2012-13年度第4分区会長・幹事会（巻）へ 坂井範夫君 丸山征夫君 5/20 2012-13年度地区協議会（長岡）へ 坂井範夫君 丸山征夫君 銅冶康之君 草野恒輔君 永桶俊一君 荏澤喜一郎君 野水孝男君 佐藤嘉男君 鈴木 武君 渡邊光郎君

博愛を広げるために

2011-2012年度 国 のテーマ



会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長
鈴木 圀彦

皆さん、こんにちは。ご挨拶を申し上げます。

本日はゲストスピーカーとして、広岡豊樹会員の奥様のご親戚の方で、人権擁護委員協議会 会長を務めておられます廣川邦夫様にお越しいただいております。お忙しい中有難うございます。よろしくお願い申し上げます。

当クラブの親クラブ 三条 RC の名誉会員、藤田説量様が 5 月 8 日、94 歳でご逝去されました。50 年近くのロータリー活動の中で、会長とガバナーを務められ、2560 地区発展に尽力されました。私は、お祭り前にお参りに伺わせていただきました。すでに密葬を済まされ、本葬は 6 月に行われるそうです。

また、5 月 14 日には広岡豊樹会員のお父様、広岡豊作様が 84 歳でご逝去されました。17 日のお通夜、18 日の告別式に参列致しました。昭和 53 年度の三条 RC の会長を務めておられます。

三条の戦後 60 年以上に亘り、保護司の世界で藤田説量様、広岡豊作様、共々在職され、ロータリーの社会奉仕、職業奉仕を身を持って実践された地元を代表する立派なロータリアンでいらっしゃいました。

謹んでお二人のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今朝の「金環日食」ご覧なられましたでしょうか。新潟県もそうでしたが、全国で部分日食が見られ、九州地方南部から四国、近畿、中部地方南部、関東地方など「金環日食」が日本の広範囲で観測されるのは実に 932 年振りだそうです。

太陽と地球の間に月が入るのが日食、太陽の周囲がはみ出してリング状を作りだすこの「金環日食」はいろいろな条件が重ならないとできない天文現象。全国各地で比較的天候に恵まれ、神秘的な世紀の天体ショーに魅了されまし

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー会長 カルヤン・
バネルジー [インド]
第2560地区ガバナー 石本 隆太郎 [新 潟]
第4分区AG 山田 文雄 [見 附]
会 長 鈴木 圀彦
幹 事 熊倉 高志
S A A 吉井 正孝

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三條信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

た。食の最大が、那覇 7 時 13 分、大阪 7 時 29 分 49 秒、東京 7 時 34 分 30 秒、札幌 7 時 29 分 49 秒と長い日本列島のため時間差があり、テレビ各局もその様子をリレー式で実況中継しておりました。今回と同様な現象は、今後 300 年後とのこと、大変に感動的な瞬間でした。

幹事報告



熊倉 高志 幹事

○石本ガバナー事務所、三条ロータリークラブより 訃報のお知らせ

藤田説量パストガバナーが 5 月 8 日ご逝去されました。一般葬が下記により執り行われます。

日 時 2012 年 6 月 10 日 (日) 午前 10:00 開式

会 場 極楽寺

喪 主 藤田坤士様 (極楽寺住職)

○ロータリー手帳について

ロータリー手帳 2012～13 年度版が届いております。ご希望の方は事務局までお申し出下さい。

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～5 月 21 日 12,000 円
今年度累計 785,480 円～

鈴木 (囿) 君 本日の外部卓話 廣川邦夫様、よろしくお願い致します。

坂井君 昨日の地区協議会、ご出席の皆さん、大変お疲れ様でした。廣川様、卓話有難うございます。

熊倉君 本日の卓話 廣川先生、よろしくお願い致します。

安達君、齋藤君、坂本君、滝口恵君、田中君、銅冶君、野水君、馬場(一)、渡邊(光)君
BOXに協力致します。

Speech



卓 話

「『こそ』の二文字」

三条人権擁護委員協議会
会 長 廣 川 邦 夫 様



私たちの日常生活は常にテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などいろいろな情報で満ちているといっても過言ではありません。

また、同じ情報も受け止め方は人によって多様であります。そんな中で、自分だけが何か心に残る、忘れられない内容の話があり、それを紹介したいと思います。

私は、30 年程前、県立図書館に併設された「県視聴覚ライブラリー」に 4 年間勤務していました。そこは、県教育委員会と近距離に位置し、学校職の方々が多く、必然的に私の職場が息抜き場として利用され、いろいろと雑談に花を咲かせる機会が多くあり、私にとっても事務的な内容の仕事が多いこともあって、楽しみの一つでもありました。

そこでの 4 年間の中で、「廣川さん、昨日いい話を聞いてきた」と先輩の K さんの話された内容が自分にとっても心に残る話でありました。

数年後、私は新潟市立教育センターに 3 年間勤務することになりました。そこは研修の場でもあり、各種の会合の場としても利用されていました。既に、校長になられた K さんが、会議の後、時々顔を見せてくれました。雑談の中で何年か前のいい話を出したら、殆ど忘れられていました。私も記憶にある程度で、いい話であった…という過去のものとなっていました。そのまま今日に至っていれば、完全に忘れ去られていた内容でありました。

それから 10 年後、私は見附市の教育委員会学校教育課長として 3 年間勤務しました。その時の一つのきっかけで、再び例のいい話が鮮明に蘇ってきたのであります。

教育委員会が所管する施設の一つに、寺泊の「海の家」がありました。シーズン前に、学校教育課が担当で一日点検作業があります。特に避難経路の確認、海岸の状況、用具の点検などが主たる内容です。

ちょうどその日は、施設を利用する研修があり、企業の団体が宿泊を伴う研修で、研修室やいくつかの部屋が利用されていました。

一応、予定した点検作業が終わり、事務室で用意された弁当を食べていた時、隣の研修室の様子が気になってきました。大声で叫ぶような声が、事務室まで響き、その異様な雰囲気伝わってきました。管理人の話では、

二日間の日程で、いろいろな職場から参加した研修会で、昨夜は遅くまで厳しい特訓が続き、時には泣き声まで聞こえたということで、それは凄まじい内容であったということです。

そんなことがあってから、前後してテレビでも「猛烈社員」「企業戦士」などをテーマにしたドキュメント内容が紹介されました。

私は、それをきっかけにして、10年前の例のいい話が再び鮮明に蘇ってきました。その話とは、次のような内容でした。

新潟市のある家電メーカーの新潟営業所の所長が、命を受けて幹部研修に出席した時のその内容です。

研修の数日間は、海の家での研修やテレビで紹介されたと同じように、とことん追い込まれるという過酷な研修で、何度か脱出をしたいと思ったほどであった。グループ単位での課題解決、短時間での報告書作成、全体の前での意見発表、最後は東京のど真ん中で、人通りの多い場所での大声で自分の主張を発表するという日程で研修は終了した。

研修の修了式での主催者側の代表の挨拶は、非常に簡単な内容であった。「数日間の研修、大変ご苦労様でした。ここで研修したものは全て忘れて下さい。」と言って、「ただ一つ、これだけは心にとどめて、職場に帰って下さい」と黒板に『こ』と『そ』の二文字を書きました。挨拶はそれだけであった。

所長は何のことも分からないまま、新潟に帰り、翌日から今まで通り厳しい上司としての日々を送った。数ヶ月後、十数名の職場の忘年会があり、業績も上がったこともあって盛り上がり、二次会会場にタクシーで向かった。気分の良いままの車の中で、所長はふと研修会後の閉会式の挨拶の「こそ」の二文字を思い出した。所長は幹事に二次会の前に、大事なことを言い忘れていたので少し話す時間をくれと頼み、皆の前で、「実は一番大事なことを言うことを忘れていた。このように業績が上がったのは、みんなが頑張ってくれたこそである。本当にありがとう」と言ったとたん、全員が「所長！」と駆け寄り、「がんばろう！」と手を握り合って、頑張ろうコールで盛り上がった。中には目に涙する者もあったという。

「こそ」の二文字で、社員との距離が一気に縮まった、翌日から職場の雰囲気さがらりと変わり、明るい言葉が飛び交う程になったという話であります。

そして、所長が「こそ」の二文字が、自分の至らなさを気づかせ、こそその気持ちから発せられる「ありがとう」の言葉の素晴らしさを深く感じたことを話されたことが廻り回って間接的に私の耳に入ったのであります。

この類の話は、尾ひれがついたり、大きく誇張されるのが常ですが、内容がシンプルで明解なこともあって、私には非常に新鮮に感じられました。また、最初はただいい話として受け止めたが、自分が管理職という立場でのこの話は、単なるいい話から自分のこれからの生き方に大きな示唆を与えてくれ、深く心に刻み込まれるような経験でありました。

そして、「ありがとう」の言葉は「魔法の言葉」であると言われていることを実感したことでもありました。私は、その後、大崎小学校、加茂の若宮中学校を最後に定年を迎えましたが、常に「こそ」と「ありがとう」を胸に過ごしたことは言うまでもありません。

あらためて、この研修を企画した主催者側の意図を考えたとき、参加した者は現場では管理職として全体を総括しているが、実は一人では何も出来ない、全体をまとめることが出来ない、全体の前でしっかりと自分の意見を伝えることが出来ない・・・そのようなレベルの人間であることを徹底的に知らされ、気づかせられたのでしょう。そして、如何にいろいろな人からの支えがあって現在の自分があるということに気付いた者だけが「こそ」という二文字が自然と言葉として発せられるのであります。

一年前の東日本大震災時、被災にあった東北の方々の言動が、日本のみでなく外国の方々に感動を与えたのは、「こそ」と「ありがとう」の心と言葉であります。

朝の連ドラの「梅ちゃん先生」「カーネーション」「おひさま」は戦前、戦中、戦後の厳しい生活の中で、自分一人では生きていけなく、助け合いながら前向きに生きる者がテーマであります。そこには、今、ともすると失いかけている「こそ」「ありがとう」が一杯溢れ、私たちに一番大切なものに気づかせてくれる内容に心が惹かれるのが好評な原因ではと思っています。

私は、現在人権擁護委員として、啓発運動、相談活動、救済活動を柱とした活動に係わっています。自分自身も「こそ」「ありがとう」のこころを大切に、幼稚園、保育園、小学校に出向き、紙芝居などの活動を通して伝えていきたいと思っています。

＜講師プロフィール＞		廣川 邦夫	昭和13年4月11日生
S37年	新潟大学	教育学部卒	54年 県視聴覚ライブラリー 社会教育主事
58年	村松町大蒲原小学校	教頭	58年 松代町立北山小学校 校長
H 2年	見附市教育委員会	学校教育課長	5年 三条市立大崎小学校 校長
9年	加茂市立若宮中学校	校長	12年 人権擁護委員 委嘱 現在に至る
15年	三条市社会教育委員会	議長	
11年	県教育委員会より	教育功労表彰	23年 法務大臣表彰

Sunday

Monday

Tuesday

Wednesday

Thursday

Friday

Saturday



3

4 ◆南RC
「創立記念例会」
鈴木園彦会長



5 ◆北RC
クラブ・フォーラム
「家庭会合報告」

6 ◆三条RC
卓話
中林 順一 会員

7 ◆東RC
クラブ・フォーラム
玉木 敏
会長エレクト

9

小千谷RC
創立50周年
於：小千谷
グリーンパーク

10

11 ◆南RC
クラブ・フォーラム
坂井範夫
会長エレクト



12 ◆北RC
歴代会長卓話

13 ◆三条RC
クラブ・フォーラム
杉山幸英
会長エレクト

14 ◆東RC
クラブ・フォーラム
玉木 敏
会長エレクト

16

17

18 ◆南RC
クラブ・フォーラム
坂井範夫
会長エレクト



19 ◆北RC
「一年を
振り返って」
星野 義男 会長

20 ◆三条RC
「一年を
振り返って」
山田 富義 会長
小出子恵出 幹事

21 ◆東RC
「一年を
振り返って」
石田 大介 会長

23

24

25 ◆南RC
会長幹事慰労会 &
野島隣一部会員の
叙勲を祝う会
18:30～
於：松木屋



26 ◆北RC
会長幹事慰労会
18:30～
於：銭心亭おゝ乃
※記帳ができます

27 ◆三条RC
会長幹事慰労会
18:30～
於：二洲楼
※記帳ができます

28 ◆東RC
会長幹事慰労会
※記帳ができます

30

*近隣RC例会変更のお知らせ

- 加茂RC 6月14日(木) 移動例会 21日(木) 夜の例会
- 分水RC 6月19日(火) 新旧役員交替慰労会
- 燕 RC 6月28日(木) 新旧役員交替慰労会
- 吉田RC 6月29日(金) 新旧役員交替慰労会

記帳場所

加茂産業会館 2F 事務局
だいえいビジネスサービス
燕三条ワシントンホテル
山岸会計事務所

表紙について

平松修之君

○ 1月3日・この日何の日?

・1951年のこの日、NHKラジオで第1回紅白歌合戦を放送

・1958年IAWが初登頂の「エーデルワイス」の登山家ヒラリーが南極点に到達

○ 1月3日・この日誕生は?

尾木直樹(教育評論家 1947年) 小堺一機(タレント、俳優 1956年)

[1956(昭和31)年1月3日生]

三條南ロータリークラブ週報

2012.5.21

No.2037 No.37